塵芥焼却炉新設

保健衛生関係の事業として[illegible]新設すべく四百八十万円が見込まれていますが、新設のための財源は単独債を以てあてることになっています。

部落電話架設 ランプともお別れ

部落電話架設、組合組織で交換台も

建設計画の中で主も強くとり上げられている部落電話の架設は電々公社の積極的な協力が得られ、部落電話施設のほか電々公社において架設する公衆電話施設などの協力もあつて、部落連絡の施設は着実に整備されていますが、本年度に於ては猿間部落及び長木の奥部に部落電話を架設することになつています。

長木奥部の場合は電話加入組合を設けて周辺の各部落に架設する予定。

大館－茂内屋敷間の費用は約一千万円を要するものでありますが、これは電々公社が負担することになり、交換施設から各部落までの架線が問題となるわけですが、しかしこのうち三粁までが公社で負担することになつています。

奥長木地区は懸案の道路も現在進行中ではあるが未完成で特に交通通信施設に恵まれていないので、この電話の架設によつて大きな利益を受けることになりましよう。

また大館市城はラジオ東北の難聴地域であるので、これが中継局を下川沿駅前に誘致建立するための折衝が行われており、これが負担とも合わ[illegible]十三万円が見込まれています。

無電燈部落の解消

市の無電燈部落としては十二所地区の合津、別所、軽井沢などがあげられますが、このうち軽井沢の場合は温泉開発事業などの進展に伴い自然に解消されるが、合津、別所については電気導入促進法にもとずいて導入すべく、地元負担を合わせて経費約百四十万円を負担してこの解消を図ることになつています。

建設計画を調整 復興祭は盛大を予定

町村合併促進法によつて樹立されました新市建設計画は市の一体的立場から真に実行性のある、又市民の福祉のための有効な建設計画とするため再調整の時期に入つているので、新市町村建設促進法に基づく建設審議会を設けてこれを行うための経費として三十七万円が見込まれています

産業祭等は計画の具体化により 予算措置

本年八月に予定されている産業祭、火災復興、市制施行七周年記念等を合わせて行おうとする大祭典については、目下関係者間で考想準備中であるため、具体計画のまとまり次第経費の予算措置を構ずることになつています。

31年度決算と主要施策の成果

昭和三十一年度決算、一般会計外七件は三月二十六日それぞそ認定されました。決算（一般会計）を概括的にみると、収入済額五億五百五十九万千六円、支出済額四億九千六万九千円で一千五百二万六千七百四十五円を残すことになるが、しかし地方自治法二百三十六条の二（才出予算の費目中、その性質上又は予算成立後の事由に基づき年度内にその支出を終らない見込のあるものについては、予め議会の議決を経て、翌年度に繰越して使用することができる）により明許繰越される額は才入において二千八百五万六千四百八十一円（明許繰越に伴う補助金の未収入額）、才出では四千三十九万四千二百三十五円となつているので、実質的には才入五億三千三百六十五万二千五百八十一円、才出五億三千五十六万三千五百八十円となります。従つて三百八万九千一円の剰余金が生ずることになるのでありますが、一面才入決算の中に火災復興都市計画事業補助金の返換を予想される額が三百八万四千三円が含まれているので、実施的な剰余金は四千九百九十八円とみることができます。

剰余金としてみられる額は以上のように僅かではあるが再建初年度として、多くの事業を完成しながら、単年度赤字は作らないという堅固な方針に基づいた結晶と云えると思います。

一般会計について、その主要施策の執行状況をみると総額一億九千三百二十六万七千円で、当該事業予算に対する執行は九五・一%、才出決算額に対して三六・四%に当つています。

【消防関係】

①国庫補助事業による防火水槽（鉄筋コンクリート製、容積四〇立方米）十カ所を主として合併地区の要所に新設

②第三分団消防ポンプ車購入

③合併に伴う新市消防五カ年計画の初年度として、可搬式動力ポンプを釈迦内、長木、真中、十二所の各地区に七台配置

④十二所地区に中古ポンプ車を記備、運転者常駐、三馬力モーターサイレン施設

⑤国消MI型移動無線機を普通車に装備、消防連絡活動を機動化した

【土木関係】

①県事業（市負担分）▽小坂－大館線延長一一粁、幅員五・五米▽十和田－大館線補装工事延長三、八〇八米、幅員五・五米▽真中－大館線櫃崎地内局部改良、延長六〇米、幅員五・五米▽国道七号線（釈迦内東線）工事延長一八〇米、幅員七・五米

②駅前火災復興都市計画事業 継続事業第二年度として総事業費三千三百万円のうち当年度分千七百八十六万五千円は一部仮換地指定の遅延による公園施設及街路工事の一部百五十九万八千円（四・八%）を繰越すのみで略完成している主な工事では▽駅前広場コンクリート舗装四一八・七平方米▽大館駅前通線アスファルト並びにトペカ舗装延長二九一・五米、幅員一八米～二二米

③大館火災復興都市計画事業 大町中心区域七六、〇〇〇坪について行われるもので、総事業費九千四百七十七万円二カ年の継続事業とし当年度分四千六百七万六千五百円で行われたが、街路の付替、道路の拡幅は仮換地問題で利害関係者の話合がまとまらないため、内千六百五十三万七千九百六十三円（三五・九%）が翌年度に繰越された。

④失業対策事業 この事業は延二一、〇七七人の労力を投じて行われたもので主な事業内容では▼道路改良▽古館～農事試験場線▽根下戸南線▽真中～二井田線（籠西線）▽片山土飛山線の四カ所の外補修除雪は市内一円に亘つて行われた▼土地整備では▽土飛山運動公園▽第一中学▽上川沿中▽有浦小▽成章小▽獅子ガ森公園▼排水路整備改良では▽商人留▽中道三角▽沼館▽赤石、このほか補修は市内一円に亘つて行われた▼保健衛生整備事業▽市内一円

⑤水害復興旧補助事業三百七十七万九千円、同単独事業二百五十九万三千円

【教育関係】

合併二年度に当るこの年度では、前年度に引続いて主要施策の重点が学校建築、六、三制の整備におかれ殆んど完成の現状で、さらに主として小学校の老朽改築に力が注がれた。

①老朽校舎の改築事業 ▽釈迦内小、建築坪数一〇〇・六坪、工事費二百六十八万八千三百三十二円▽川口小、建築坪数二〇一坪、工事費六百二万六千円▽葛原分校、建築坪数七一坪、工事費二百八万円

②六、三制整備事業 ▽第一中学校増築、建築坪数一四五・三坪、工事費三百一万一千四百四十円

③その他の建築 ▽真中小屋体増築、建築坪数三二坪、工事費八十四万六千円▽成章中、水源地買収一〇七坪、金額十万円

【住宅関係】

①公営住宅建設事業 公営住宅の建設は総事業費五千七百五十八万七千四百六十五円を投じて行われ建設の棟数七七、戸数一三三の大きに及んでいる。内訳では△第一種木造、一棟一戸建、一〇棟（獅子ガ森）▽第二種木造、一棟一戸建、六三棟（二ツ森五、獅子ガ森五八）▽第二種中層耐火構造、四階建一棟二四戸、二棟（中町）▽第一種簡易耐火構造一棟、六戸建二棟（東台）

【産業関係】

①小団地開発事業▽機械揚水施設（道目木）▽牧道新設（柄沢）▽開拓道路新設（大茂内沢）

②農山漁村建設綜合対策事業 新農山漁村建設綜合対策要綱に基づく特別助成事業として当年度実施したものは総事業費八百七十二万二千円、内市負担四百三十六万二千円

③林業▽林道（石渕、山館）▽造林五十二町八反、補植下刈等百二十一万六千円。

④商工▽観光案内所新設四十一万六千円

【財産関係】

▽附属庁舎建設百九万五千円▽部落電話新設百二十一万五千円▽自転車置場新設十五万五千円。

昭和三十一年度決算

一般会計歳入

単位＝千円（未満切捨）

科目	収入済額
市税	135.547
地方交付税	78.381
公営企業及び財産収入	3.047
分担金及び負担金	933
使用料及び手数料	7.069
国庫支出金	90.994
県支出金	14.134
寄附金	1.238
繰入金	750
繰越金	0
雑収入	12.899
市債	160.600
才入合計	505.596

歳出

科目	支出済
議会費	10.205
役所費	47.523
消防費	18.168
土木費	37.368
教育費	63.062
社会及び労働施設費	59.388
保健衛生費	5.743
産業経済費	18.843
財産費	14.312
統計調査費	441
選挙費	1.628
公債費	31.578
諸支出金	116.463
失業対策費	7.630
予備費	0
火災復興費	98.202
才出合計	530.563

翌年度才入繰上充用金　24.967

特別会計

特別会計の種別	才入	才出
国民健康保険	37.370	32.604
恩給基金	1.666	1.666
公益質屋	8.668	7.639
上水道事業	24.185	24.134
温泉開発	2 725	2.720
桂城1地区画整理事業	2.306	1.327
大滝簡易水道	464	385

課長さん達の[illegible]したびだが、事務的な実務を担当する係長会議は始めてである。

近年はとくに仕事が多くまた繁雑だ。忙殺されて不勉強になるなどとは、云いわけも過ぎることだが、そのせいであるのか、ないのか事務処理の欠点を指摘される面が多くなつている。

実際、その事務を担当している者には、あるいは自分だけの善意と責任でかたづけていいとは云えない、いろいろな障害もあるように思われる。

そこで、どのようなことが障害となつているのか。

また、その障害をとり除くためには、どうすればいいのか。

こうした問題について、実際に事務処理を担当する係長さん達の立場から、苦情や意見を聞かんものと、初の係長会議が開かれたわけ。

課長さん達の出席で気がかりになつては？と云うのか課長さん達は遠慮組。初めての会合であつたためか、多少は控目だつたが議論は百出、聞き方の助役さん、田村課長さんも、今日ばかりは畏つて拝聴。検討の上善処することになりました。

また今後も事務処理の合理化、適確化を図り、能率的、効果的なものとするため、お互が勉強し話合つてよりよい市民のサービス、ステーションにしようと度々会議をもつことになりました。

市勢（特集）

—⑪—

昭和33年2月1日現在で実施されました秋田県統計調査条例にもとづく「冬期農業基本調査」の結果概要を特集しました。この調査の対象となつた農家は①田畑，樹園地など経営する耕地の面積が一反以上の農家②経営する耕地面積が一反歩未満であつても昨年度一ケ年間の農産物畜産物の販売収入が二万円を超えるもの（例外規定農家という）である。第一表は経営する耕地の広狭による農家数を地域別にみたものであり，例外規定農家二戸が除かれている。

第二表は32年産米の栽培農家と栽培の面積とその収穫高を地域にみたものである。

表1　農家戸数

	総数	大館	釈迦内	長木	上川沿	下川沿	二井田	真中	十二所
総数	3808	420	714	469	342	410	464	350	639
3反未満	376	70	108	43	27	37	24	10	57
3～5	524	71	128	66	40	65	37	30	87
5～10	1005	119	226	118	82	120	93	86	161
10～15	828	80	130	103	77	102	87	101	148
15～20	644	43	84	91	58	66	116	80	106
20～30	403	32	36	46	58	19	96	41	75
30～50	25	3	2	2	—	1	10	2	5
50反以上	3	2	—	—	—	—	1	—	–

表2　稲栽培戸数面積及び収穫高（面積は反・収穫は石）

	総数	大館	釈迦内	長木	上川沿	下川沿	二井田	真中	十二所
栽培戸数	3677	387	709	441	333	409	460	342	596
収穫面積	31359	2813	4830	3662	3278	3268	5342	3618	4548
収穫高	81696	7636	12385	8872	8175	8810	14478	9775	11562

表3　就業状態別農家人口

	総数	大館	釈迦内	長木	上川沿	下川沿	二井田	真中	十二所
総数	25864	2892	4740	3341	2436	2618	3274	2338	4225
官公署勤務	593	58	121	121	37	89	50	27	90
民間雇用者	1947	237	595	234	156	164	130	119	312
家業従事者	10289	1113	1674	1396	949	1048	1399	989	1721
日雇その他	1250	160	231	147	164	100	156	122	170
学生生徒等	6313	656	1271	796	567	662	767	581	1013
不就業者	5472	668	848	647	563	555	772	500	919

世帯と人口（住民登録3月1日現在）世帯数10.542
人口 59.202
男 29.321　女 29.881
2月の人口動態と戸籍統計
出生 110　死亡 35　転入 92
転出 130　婚姻 67　離婚 6
養子縁組 5　同離縁 1

世帯と人口（住民登録4月1日現在）世帯数10.544
人口 59.238
男 29.334　女 29.904
3月の人口動態と戸籍統計
出生 133　死亡 60　転入 217
転出 254　婚姻 95　離婚 6
養子縁組 5　同離縁 5